

インターバンクの声（2016年10月13日）

朝方の英ポンドの急上昇を除けば大きな変化もなく静かだった昨日の東京外国為替市場だったが、後場の東京証券取引所が引けた後、にわかに緊張感が走った。影響があった地域が東京の全域ではなかったことが後で分かったが、一部で断続的な停電が起こったからだ。ひょっとするとテロではないかとの憶測も出て、外人勢の円売り仕掛けに備えるところもあったようだ。しかし、復旧が比較的早めだったこともあり、原因が送電ケーブルの老朽化とされたことで相場の急変もなく事なきを得た。その後のドル円は、欧州時間になっても静かな動きが続いたが、ニューヨーク市場に入って暫くすると、103円台後半での取引が続いていたドル円が一気に104円台中盤まで上昇した。米連邦公開市場委員会(FOMC)の9月の議事要旨の発表を前に、年内の利上げ観測がさらに高まったらしく、米長期金利が上昇したことで投機筋のドル・ショートストップも重なったようだ。巷にはまだまだ円高論者が多いようだが、もう一段の円売りが進むようだと、市場のセンチメントも円売りに傾き始めるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。